

三菱
零式艦上戦闘機 11型

童友社 1/100スケール零戦21型小改造
製作・文：政府開発援助

1. 零戦11型について

海軍零式艦上戦闘機11型は、試作機（十二試艦上戦闘機）の発動機を栄12型に変更し、各部に修正を加えたものである。中国大陸内部で航続距離の長い護衛戦闘機が渴望されたことから、本来艦上戦闘機として必要な装備のないまま、局地戦闘機扱いで正式採用された。

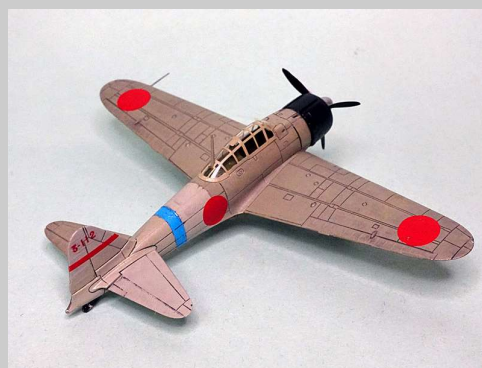
2. 製作と塗装について

11型のキットは存在しないので、史実とは逆になりますが21型から先祖返りさせています。今回は最初期と思われる形状を再現してみました。具体的にはキャノピー後端のモールド変更、単排気管の位置変更、20mm機銃孔の形状変更、右主翼付根に空気取入口を追加、着艦フックの除去を行っています。翼端折り畳みに関わるモールドは、スケールの都合から元々省略されていました。ピトー管は伸ばしランナー製です。

11型ならではの塗装ということで、前半／後半のツートンカラー（実際は日焼けによる退色）を再現してみました。前半はタミヤアクリルの灰緑色、退色した後半はクレオスのガルグレーを筆塗り。細部はいずれもラッカー系塗料で、カウリングをカウリング色で、コクピット周りを機体内部色（三菱系）で、プロペラブレードを銀色で塗装しました。タイヤは好みでつや消し黒としました。マーキングは機番のみインクジェットプリンタで自作し、日の丸と赤線はモデラーズの赤色デカールから切り出し、青線はスカイブルーで塗り分け。タミヤのスミ入れ塗料各色を適当に使い分けてスミ入れ後、缶スプレーのクリアー（半光沢）を吹いてツヤを整えています。



前方より



後方より

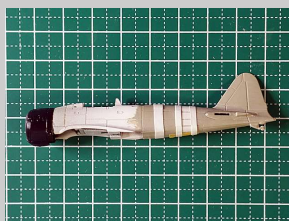
3. 途中画像



キャノピー後端の金属板（の塗り分け）を除去。



排気管の位置を変更し、着艦フック基部を埋めた。



機体後半を塗装してからマスキングして前半を塗装。



機番は自作、日の丸は丸ポンチで切り出した。